

## 「Liver Cancer」 投稿ならびに執筆規定

### 【論文の募集と採否】

- ・ 投稿論文は、原著論文、症例報告など他誌に未発表のものであり、肝臓学の進歩に寄与するものであることとします。
- ・ 投稿原稿の採否は編集委員会で決定します。審査の結果、編集方針に従って原稿の加筆削除および一部書き直しをお願いすることがあります。  
不採用の論文は速やかに返却致します。
- ・ この雑誌は国立国会図書館 ISSN 1341-1926(国際標準逐次刊行物)として登録されており、単なる記録集ではありません。他誌に投稿の場合は二重投稿になりますのでご注意ください。  
\* 編集部にご相談下さい。

### 【原稿作成上の注意事項】

1. 原則的に原稿用紙(400字詰)にパソコンを使用して下さい。  
お手数ですがCD または USB, MO(コピー済み:テキストファイルに落としたもの)などに保存したデータとプリントアウトした原稿1部を一緒にお送り下さい。  
また、ご使用されたコンピュータの機種およびソフトの名称をご明記願います。  
例) コンピュータ→Windows, Macintosh ソフト: Microsoft Word 2007  
(Windows Vista をご使用の場合はその旨も明記して下さい。)

2. 原稿枚数(A4判, 400字詰原稿用紙)

枚数 (文献を含む)	英文抄録		文献	組上がり頁
	要旨	Key words		
原著 25枚以内	200 words 以内	4語以内	20項目以内	6頁以内
症例 15枚以内	同上	同上	10項目以内	5頁以内

原稿枚数にはタイトル、著者名(16名以内)、所属、文献を含みます。

図、表、写真の枚数は制限がありませんが、常識的な範囲でお願いします。

※組上がり頁を超えた場合は文章等をカットしていただくか、組上がり1頁 ¥20,000の超過料金を申し受けます。

3. 英文抄録には200 wordsの要旨(スペルチェッカーをかけたもの)の他にタイトル、著者名、所属、4語程度のKey wordsを必ず付けて下さい。
4. 原稿1枚は20字×20字の横書き、専門用語以外は当用漢字、現代かなづかい(平かな)を用い平易明瞭に、句読点は正確にお書き下さい。  
本文は原則として日本語に限ります。また、図表は説明文も含めてすべて英語とします。
5. お預かり致しましたデータを編集部にて組上げ、レイアウトし、頁アップしたものを著者校正していただきます。著者校正は原則的に1回とします。

6. 論文の構成は次の見出しでまとめて下さい。

(原 著)英文要旨, はじめに, I. 対象(材料)・方法, II. 成績(結果), III. 考察, おわりに

(症 例)英文要旨, はじめに, I. 症例(患者, 主訴, 既往歴, 家族歴, 飲酒歴, 喫煙歴, 現病歴, 入院時  
症状, X線, CT等各種検査所見), II. 臨床的ならびに病理学的検討, III. 考察, おわりに

7. 本文は「はじめに」ではじまり, 「おわりに」で結びます。

項目は次のような記号を用いて下さい。

I. …… 1. …… 1) …… a. ……

8. 数字は算用数字を用いますが, 術語や熟語中の数字は漢字とします。

例 (i) 2時間, 5~6回, 42個, 3成分系など。

(ii) 二, 三の問題, 一つ, 二つ, 一部分など。

9. 度量衡単位はCGS単位でm, cm, mm, cm<sup>3</sup>, ml, l, dl, kg, g, mgなどとして下さい。

10. 文中度々繰り返される用語の代わりに略語を用いる場合は, 初出の時に正式の語を用い, その際  
「(以下……)」と断ることとします。

11. 外国語(人名, 薬品名など)は原語のまま用いて下さい。外国語で一般に日本語化しているものは片  
カナで表記し, 学名はイタリックで記載するか, またはアンダーラインを附記して下さい。

12. 図, 写真はパワーポイントなどのデータ, またはそのまま使用できる鮮明なものを原則として, 本文  
とは別に添付し本文中に挿入位置を明示して下さい。

13. 図や写真, USB, MOなどは後日返却致します。至急返却をご希望の場合はお申し出下さい。

14. 図および表はでる順番に番号を附して下さい。

15. 他人の図表を用いる場合は出典を必ず明記して下さい。

16. 図表の記載および説明は英語とします。

17. 原色版(カラー)は掲載致しません。

18. 筆頭著者には掲載誌1冊贈呈致します。

別冊ご希望の場合は50部単位で実費作成致します。

19. 原稿には連絡先を明記し, 共著の場合は校正者を指定して下さい。

20. 本書全体統一のため, 編集者にて一部原稿の修正をお願いすることがありますのでご了承下さい。

## 【参考文献の書き方】

1. 文献は本文中に引用されたものを番号順に配列して下さい。

本文中は文献番号を片括弧に入れ肩付きとし引用箇所に記入して下さい。

2. 著者名は3名まで明記し, それ以上は省略し『他』または『et al』として下さい。

3. 外国文献の雑誌名の省略はIndex Medicusに準じて下さい。

4. 文献の記載順序

### \* 雑誌の場合

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 巻: 頁-頁, 発行西暦年号.

例 1) 植松有門, 山本稔彦, 二井 栄・他: 子宮頸癌に対する抗腫瘍免疫化学療法の試み. 癌と  
化学療法 7: 1264-1271, 1980.

例 2) Oshimi K, Oshimi Y, Satake M, et al : Natural killer-mediated lysis of normal and malignant target cells, and its regulation by monocytes. J. Exp. Med. 162:472-486, 1985.

\* 単行本の場合

(a) 単独執筆：引用番号 著者名：書名. 巻, 版, 発行所, 発行地, 西暦年号, pp. 頁-頁.

例 1) 三宅 博:胆石症. 第2版, 金原出版, 東京, 1970, pp. 500-508.

例 2) Bodey GP:Current status of chemotherapy in metastatic renal carcinoma. Cancer of the Genitourinary Tract. Raven Press, New York, 1979, pp. 67-72.

(b) 分担執筆：引用番号 著者名:分担論文名. 書名(編集名), 巻, 版, 発行所, 発行地, 西暦年号, pp. 頁-頁.

例 1) 幕内雅敏, 長谷川博, 山崎 晋・他:肝細胞癌の早期診断法. ウイルス肝炎から肝細胞癌へ(服部 信編), 第2版, 癌と化学療法社, 東京, 1982, pp. 349-369.

例 2) Popper H and Schaffer F:Chronic hepatitis toxonomic, etiologic, and therapeutic problem. In Progress in Liver Diseases (edited by Popper H and Schaffer F), 2nd Ed, Grune and Stratton, New York, 1976, pp. 531-535.

【患者情報保護に関する指針】

個人情報保護法を受けて、症例報告を含む医学論文で患者個人を特定できないようにする義務が課せられるようになり、この度本誌として以下の指針を作成しました。

1. 患者個人の特定可能な氏名, 入院番号, イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
2. 患者の住所は記載しない。ただし, 疾患の発生場所が病態などに関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする(神奈川県, 横浜市など)。
3. 日付は年月までとし, 原則的に日は記載しない。
4. すでに他院などで診断・治療を受けている場合, その施設名ならびに所在地を記載しない。
5. 顔写真を提示する際には目を隠す。眼疾患の場合は, 顔全体がわからないよう眼球のみの拡大写真とする。
6. 症例を特定できる生検, 剖検, 画像情報に含まれる番号などは削除する。
7. 遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省, 厚生労働省および経済産業省)(2001年3月29日)による規定を遵守する。

【原稿送付先, 問い合わせ先】

原稿は簡易書留あるいは宅急便にてお送り下さい。

写真在中の場合には必ず封筒に「写真在中」または「二折厳禁」と明記して下さい。

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-2-3 リッシュビル2階  
癌と化学療法社「Liver Cancer編集部」  
TEL. 03-3278-0052 FAX. 03-3281-0435  
E-mail : ccp@blue.ocn.ne.jp